

島根原子力発電所2号炉 審査資料	
資料番号	EP-060 改 51(説6)
提出年月日	令和2年6月16日

島根原子力発電所2号炉 残留熱代替除去系について (コメント回答)

令和2年6月
中国電力株式会社

審査会合での指摘事項に対する回答

No.	審査会合日	指摘事項の内容	回答頁
1	令和2年2月20日	除熱手段に関する自主対策についても全体像を示すこと。	2

審査会合での指摘事項に対する回答 (No.1)

■ 指摘事項 (第838回審査会合 (令和2年2月20日) RHAR)

除熱手段に関する自主対策についても全体像を示すこと。

■ 回答

残留熱代替除去系が使用できない場合、除熱手段として以下を設ける。各手段は、事故発生約30日後の崩壊熱を除去可能である。

➤ 可搬型格納容器除熱系による格納容器除熱 (図1-1)

サプレッション・チェンバを水源とし、耐熱ホース・可搬ポンプによりサプレッション・プール水を可搬型熱交換器へ供給し、除熱したサプレッション・プール水を原子炉圧力容器へ注水する。可搬ポンプの容量を考慮し、サプレッション・プール水冷却及び格納容器スプレイは行わない設計ではあるが、サプレッション・プール水温及び格納容器温度は低下し、格納容器除熱が可能である。

➤ 原子炉補機代替冷却系を用いた原子炉浄化系 (CUW) による原子炉除熱 (図1-2)

原子炉圧力容器を水源とし、CUW補助ポンプにより炉水をCUW補助熱交換器へ供給し、除熱した炉水を原子炉圧力容器へ注水することにより崩壊熱除去が可能である。

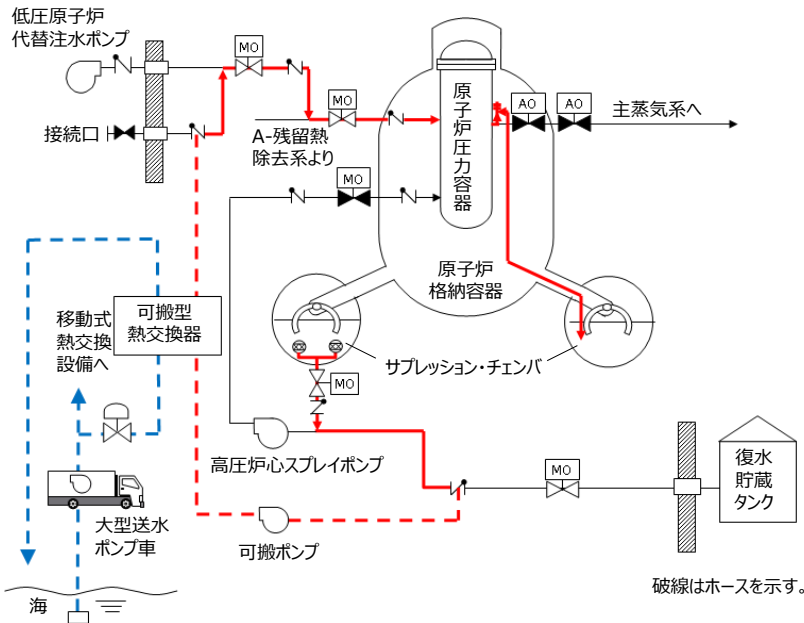


図1-1 可搬型格納容器除熱系による格納容器除熱

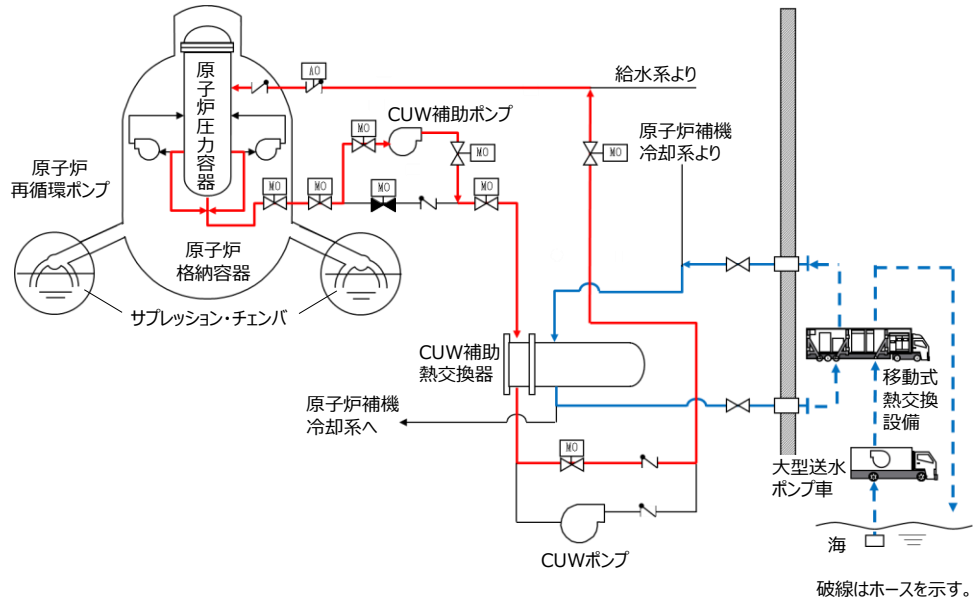


図1-2 原子炉補機代替冷却系を用いた原子炉浄化系による原子炉除熱